阪南市「 マスターズカフェ 」

キーワード	当事者の活躍　社会参加　共生型カフェ

○ 自治体情報（令和元年９月３０日現在）

人　口	53,969 人	高齢者 人　口	17,302 人 （高齢化率 32.06%）	面　積	36.1 ㎢
市の紹介	大阪府の南西部に位置し、大阪市の中心部から約 45km、和歌山市から約 10km の距離となっている。 「第７期阪南市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」総人口は減少傾向にあるなか、65 歳以上人口は増加傾向にあり、2025 年には高齢化率が 35.5%になることが予想されている。				

① 活動の概要

取り組み内容	当事者の声から生まれる拠点づくり
取り組みの実施主体	**マスターズ（当事者、介護者含む有志の男性グループ）**
連携した機関等	行政、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、社会福祉協議会、阪南市介護者（家族）の会（男性介護者の会）、キャラバン・メイト、市内障がい福祉サービス事業所、手話サークル　など
取り組み開始時期	**平成 30 年５月よりプロジェクト開始** **平成 30 年９月に実施。以降、毎週木曜日に継続して実施。**

② この活動に取り組んだきっかけと経過

認知症地域支援推進員（以下、推進員）が、日頃の相談支援を通じて、以下の思いや声をニーズとしてキャッチしていた。

1. 生涯学習推進室や市立図書館による**「キッチンのある空きスペースで『にぎわい』『活性化』の生まれる継続的な交流の場をつくりたい」**という思い

2. 男性介護者の会に所属する一人が語った「妻が認知症になった時、相談場所がわからず困った。悩みを聞いてもらえて、人と出会える場所はとても必要なこと」**「自身の体験を活かして、悩んでいる人の話を聞いてあげたい」**という思い

3. 認知症当事者から聞いた**「毎日特に行くところもなく、図書館に通っている」**という声

これらのニーズについて当事者を含む関係者同士で話し合いを行った結果、活動する住民と各種団体が協働し『認知症にやさしい図書館』を作り上げていくことが大きなテーマになることを共有。そのテーマを元に「知る、学ぶ、つながる」の３つのプロジェクトを立ち上げ、その中の「つながる」プロジェクトとしてマスターズカフェを実施することになった。

③ 活動内容

毎週木曜日の午後１時 30 分から午後３時まで、１杯 100 円でコーヒーや紅茶等のドリンクを提供。

男性の認知症当事者や介護者がウェイター役（マスター）を担いながら、カフェ参加者との会話を通じて楽しく交流している。

キッチンでのドリンク手配など、裏方にあたる業務は、ボランティアが週替わりでサポートしている。

活動から１年以上が経過した今も、カフェが笑顔で溢れており、毎週平均 60 杯前後のドリンクが提供されている。

カフェスペースには図書館に寄付された本が 500 冊程度設置されており、自由に閲覧が可能。

④ 活動を進めていく上での工夫・配慮

・マスターズの思いをカタチにするためのコーディネートを意識

立ち上げに向けた準備の段階から、**推進員が何度もマスターズ（マスターたち）と話し合いを行い、マスターズの「こういうものを作りたい」という思いと、達成するための課題について整理する**ことを意識した。

その中で、費用面の課題に直面した時は、助成金の申請（be Orange 認知症まちづくり基金 2018）を推進員が代行した。

また、マスターズから「カフェとともにパンやお菓子も欲しい」という声が上がった時には、市内でパンやお菓子作りを行っている就労支援事業 B 型事業所に、カフェへの出張販売の依頼を推進員が調整したりするなど、**マスターズの思いをカタチにするため**のコーディネートを行うよう意識した。

現在も、毎週カフェの終了後、振り返り会を行い、マスターズで積極的な意見交換が行われている。

⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題

・認知症当事者の生きがい活動の場として機能

介護保険のデイサービスや就労支援事業Ｂ型事業所などの障がい福祉サービスといった、公的な社会保障サービスとは違った、認知症当事者の生きがいを支援する一つの社会資源として、地域に根づいてきている。

・活動への協力団体が増え、認知症だけにとらわれない「地域共生型カフェ」へ発展

難聴の当事者が主体となって活動している市内の手話サークルが、マスターズの活動に影響を受け、カフェの立ち上げを決意。マスターズカフェの姉妹カフェとして「手話カフェ」が、マスターズカフェと同じ場所、違う曜日に定期開催されるようになるなど、様々な形で発展・普及につながっている。

⑥ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）

・協力団体の輪が広がることで「支えあいの場づくり」のさらなる拡大へ！

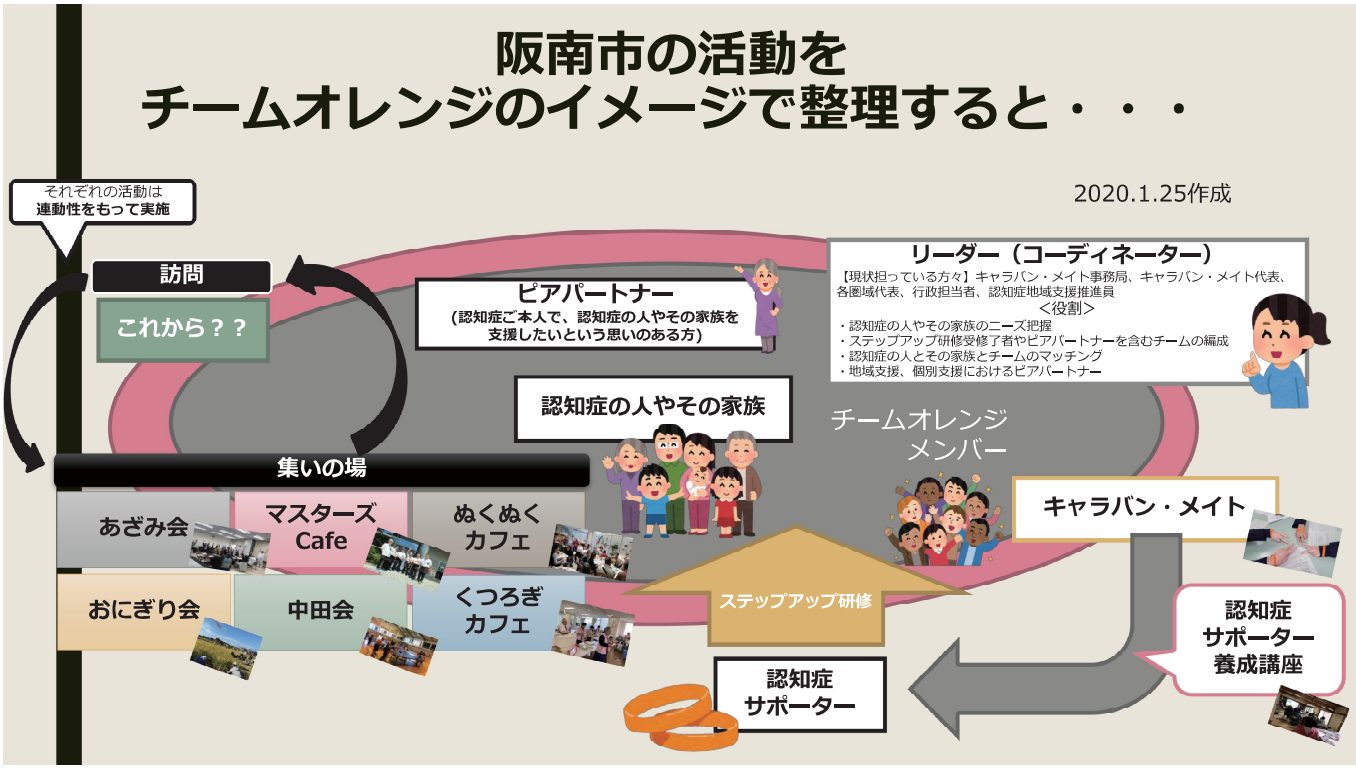
協力・協賛する方々の声に今後もアンテナを張りめぐらしながら、さらなる「支え合いの場づくり」を推進したい。

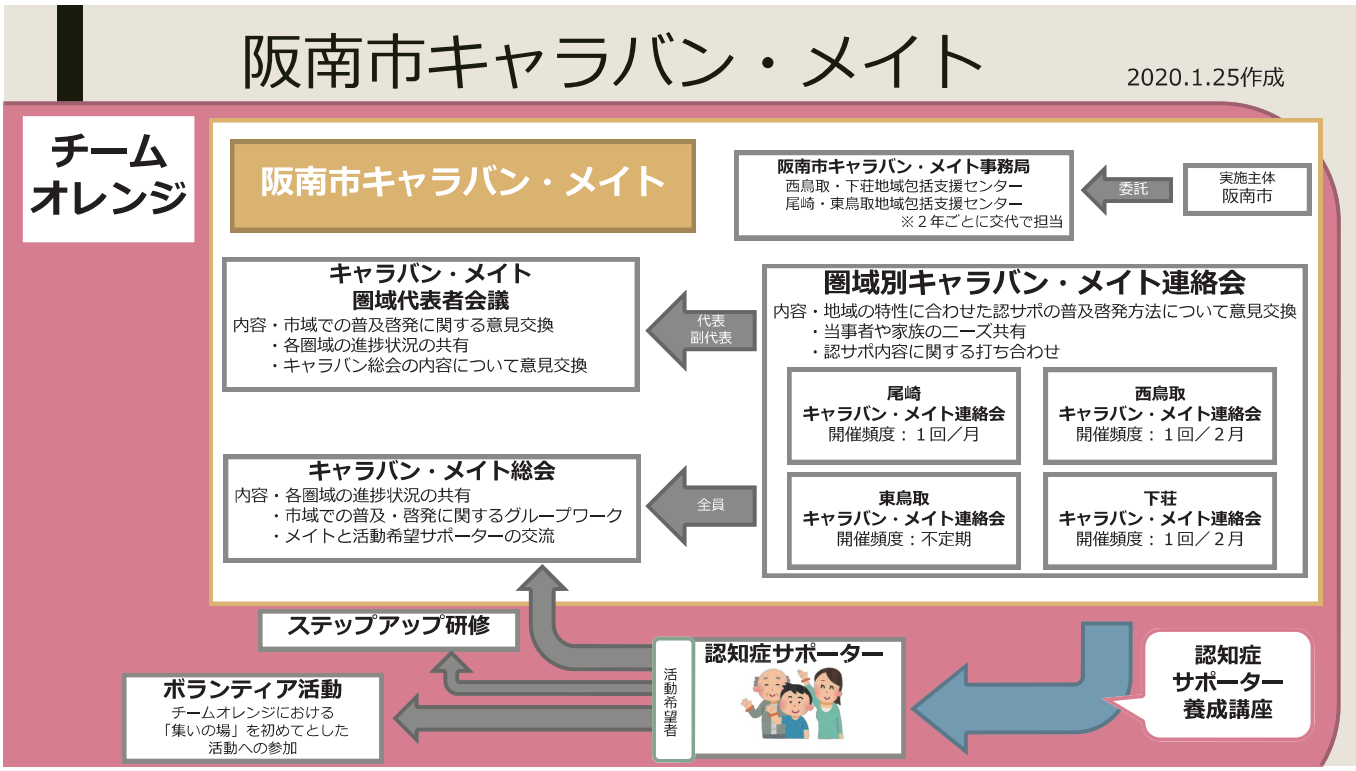
また、それらの活動団体同士が交流出来る機会を企画することでさらなる輪の拡大に寄与し「地域共生社会」の実現につなげたい。

この活動を通して見えてきたポイント

●「やりたい」という声を蓄積し、つなぎ合わせることで、協働関係と実現につながる
●「やりたい」をカタチにするための話し合いを繰り返すことが重要
●実現に向け課題を整理し、当事者と一緒に一歩ずつ課題解決に取り組むことが大切

【泉州圏域 阪南市】


阪南市の活動を
チームオレンジのイメージで整理すると・・・
2020.1.25作成
それぞれの活動は
連動性をもって実施
訪問
これから？？
ピアパートナー
（認知症ご本人で、認知症の人やその家族を支援したいという思いのある方）
リーダー（コーディネーター）
【現状担っている方々】キャラバン・メイト事務局、キャラバン・メイト代表、各圏域代表、行政担当者、認知症地域支援推進員
＜役割＞
・認知症の人やその家族のニーズ把握
・ステップアップ研修受修了者やピアパートナーを含むチームの編成
・認知症の人とその家族とチームのマッチング
・地域支援、個別支援におけるピアパートナー
認知症の人やその家族
チームオレンジ
メンバー
集いの場
あざみ会
マスターズ
Cafe
ぬくぬく
カフェ
おにぎり会
中田会
くつろぎ
カフェ
ステップアップ研修
キャラバン・メイト
認知症
サポーター
養成講座
認知症
サポーター


阪南市キャラバン・メイト
2020.1.25作成
チーム
オレンジ
阪南市キャラバン・メイト
阪南市キャラバン・メイト事務局
西鳥取・下荘地域包括支援センター
尾崎・東鳥取地域包括支援センター
※２年ごとに交代で担当
委託
実施主体
阪南市
キャラバン・メイト
圏域代表者会議
内容・市域での普及啓発に関する意見交換
・各圏域の進捗状況の共有
・キャラバン総会の内容について意見交換
代表
副代表
圏域別キャラバン・メイト連絡会
内容・地域の特性に合わせた認サポの普及啓発方法について意見交換
・当事者や家族のニーズ共有
・認サポ内容に関する打ち合わせ
尾崎
キャラバン・メイト連絡会
開催頻度：１回／月
西鳥取
キャラバン・メイト連絡会
開催頻度：１回／２月
東鳥取
キャラバン・メイト連絡会
開催頻度：不定期
下荘
キャラバン・メイト連絡会
開催頻度：１回／２月
キャラバン・メイト総会
内容・各圏域の進捗状況の共有
・市域での普及・啓発に関するグループワーク
・メイトと活動希望サポーターの交流
全員
ステップアップ研修
ボランティア活動
チームオレンジにおける
「集いの場」を初めてとした
活動への参加
活動希望者
認知症サポーター
認知症
サポーター
養成講座

【泉州圏域】阪南市